



シワの出来るメカニズム

衣服のシワというのは、日常生活の中ではごく普通で「何故しわができるのかな？」なんてあまり考えたりしないものです。

衣類のシワは、「洗濯」や「着用」する事で折り曲げられたりした時に変形し、その状態で固まるとシワになります。

【着用シワ】

●繊維の違い

- A) シワが付きにくい繊維・・・合成繊維・羊毛
- B) シワが付きやすい繊維・・・綿・麻・レーヨン

●織物組織のズレ

衣服の生地は2種類あります。

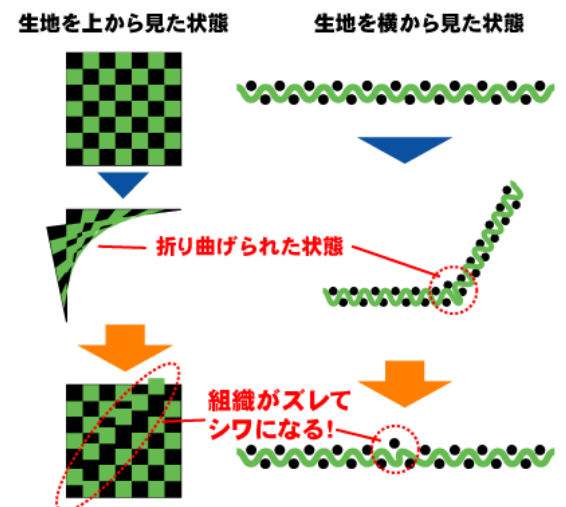
@編み物・・・セーター等、糸をループに絡めた組織なのでシワになりくい。

また、構造が立体的でシワになっても目立ちません。

@織物・・・シャツ等、縦糸と横糸が組み込んで作られた組織で蜜な程シワになりやすい。

糸が圧力や運動で折曲がった時にズれて元に戻らない、

つまり、着用によって織物組織がズれてしまう事がシワの原因となります。



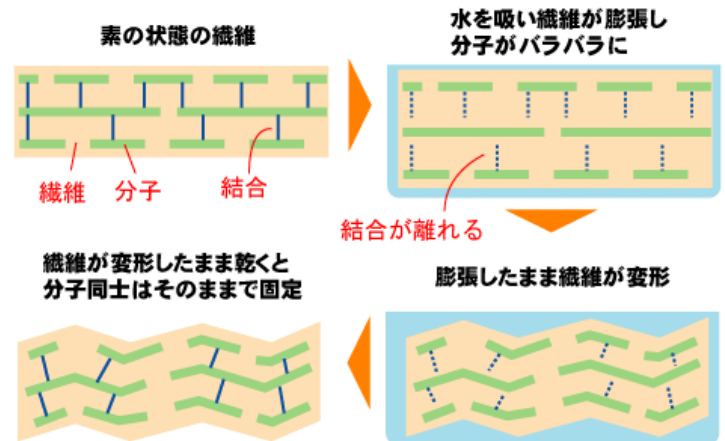
【洗濯シワ】

●繊維分子の変形

ミクロの世界で見ると、繊維は分子で出来ておりそれが弱い結合により結びついて繊維を作っています。

シワが出来やすい「綿」や「麻」などの繊維は洗濯で水を吸い込むと分子はバラバラになります。

その状態のまま乾燥され固定されてしまう事が、シワの原因です。



【形態安定加工】

シワの原因は概ね「繊維の特性」「組織のズレ」「分子のズレ」で、その問題を克服するような加工をすればシワが出来にくくなる！という発想で出来たのが「形態安定加工」です。

形態安定加工に施される特殊加工（シャツなどに表示されています）

@SSP加工・・・生地に液体アンモニアと樹脂で加工してから縫製し、高温処理する方法

@VP加工・・・縫製後にホルマリンガスを吹き付けて繊維内に浸透させる方法）等

●形態安定加工を自宅で洗う事の問題点

シワが出来にくくアイロンの手間も無くなるというメリットがありますが、以下のような問題点がある事も知っておきましょう。

@エリ・袖の様な頑固な汚れは家庭洗濯では、残る場合が多い

@クリーニング仕上げの様なハリのある仕上げにはなりにくい。

@生地がもろく、破れやすい

